

賀川豊彦とユヌス氏

賀川豊彦記念館館長 田辺 健二

賀川豊彦が神戸のスラム街で献身的な奉仕活動に入ってから百年。キリスト教の博愛精神に基づく賀川の活動に、さまざまな角度からスポットライトが当たっている。鳴門市の賀川豊彦記念館館長の田辺健二さんが、貧民救済のための金融機関創設に尽力し、人類社会を「持続可能なもの」にする活動(ESD)の先駆者だった賀川の活動について寄稿してくれた。



田辺健二氏

貧しい人たちがそう嘆くように、世の中には、不条理が当然のようにまかり通

弱者救済金融機関設置

貧困脱出へ低利で支援



弱者救済に力を注いだ賀川豊彦(賀川豊彦写真集から)

一方の、ムハマド・ユヌス氏は、バングラデシユに「グラミン銀行」を創設した業績によって、二〇〇六年、ノーベル平和賞を受賞した人物である。

ユヌス氏は、銀行から金を借りてもらえず、高利貸にわずかの借金で支配されている四十二人の村人のために、給料の中から二十七日を立て替え払いしたことにより、村人から「偉大な人物」だと見られるようになった。「で

は、もっと貸してあげよう」というのが理由だった。しかし、ユヌス氏が村人に貸したお金は100%返還されたのだった。ユヌス氏は思った。「世の中は信頼が大切なのだ」と。そこで、政府に働きかけ、ようやくグラミン銀行を設立することができた。これまで銀行から貸してもらえなかった貧しい人々と女性に、少額のお金を安い利息で、担保なしで貸してあげる銀行(マイクロファイナンス)である。貧しい人々、特に女性は、その少額のお金をもとに、子どもの教育のため、将来の生活のために、農業、牛飼、綿織物、籠作りなどの家内企業を立ち上げ、次第に自立していった。

先日、神戸市で開かれた神戸大学と賀川豊彦献身百年記念事業神戸プロジェクト実行委員会の主催による「ESDシンポジウムインKOBÉ」。そこで貧民救済を進める「グラミン銀行」をバングラデシユに創設したムハマド・ユヌス氏の講演などを聞いた。銀行創設の動機などを語ったユヌス氏の姿は八十年余り前の賀川の姿と重なる。

「銀行は、お金のある人にお金を貸して、お金のない人にはお金を貸さない」

「銀行は、お金のある人にお金を貸して、お金のない人にはお金を貸さない」

「銀行は、お金のある人にお金を貸して、お金のない人にはお金を貸さない」

「銀行は、お金のある人にお金を貸して、お金のない人にはお金を貸さない」

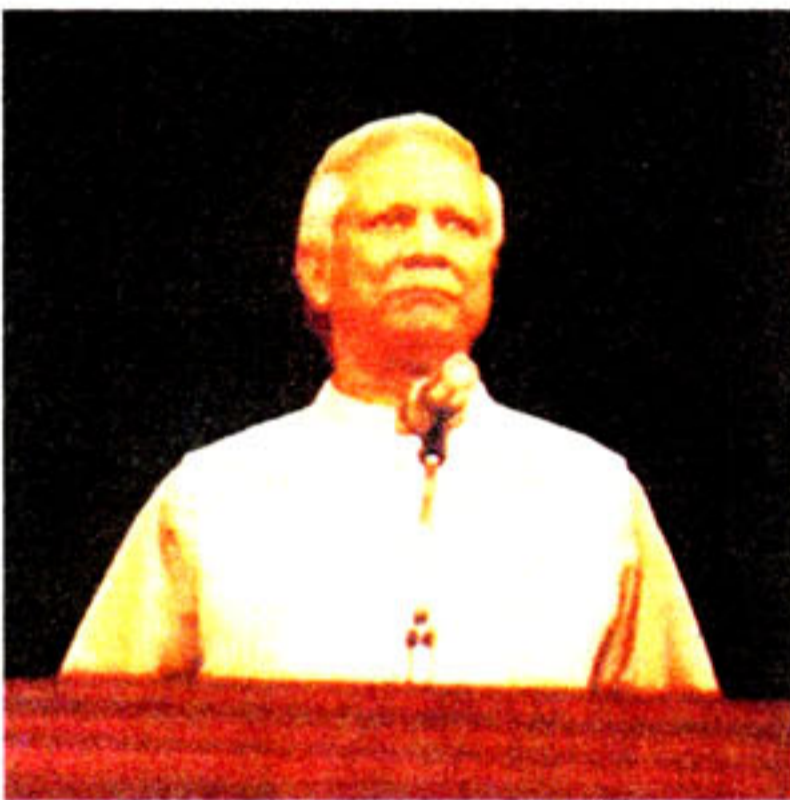
「銀行は、お金のある人にお金を貸して、お金のない人にはお金を貸さない」

「銀行は、お金のある人にお金を貸して、お金のない人にはお金を貸さない」

「銀行は、お金のある人にお金を貸して、お金のない人にはお金を貸さない」

たなべ・けんじ 193 授(国文学)。同大学名誉

9年大分県生まれ。広島大学大学院博士課程・文学研究科修了。鳴門教育大学教



「ESDシンポジウムインKOBÉ」でグラミン銀行の意義などについて講演するムハマド・ユヌス氏(神戸国際会議場(田辺氏提供))

き、時代に先駆け、庶民への融資に道を開いた賀川の業績があらためてのしほれた。